

第1学年 国語科学習指導案

活動日 平成14年2月16日
授業者 浅野 久美子
活動場所 1年3組 教室(校舎1階西)

1. 単元名 「おはなしをたのしもう たぬきの糸車」 (全16時間)

2. 単元について

本教材は、いたずらたぬきと、それを「いたずらもんだが、かわいいな。」と思うおかみさんとの温かい交流を描いた民話である。また、擬音語や擬態語からくるリズムカルな楽しさやユーモラスな情景を想像しながら物語のおもしろさを味わえる作品でもある。

児童は、これまでに「大きなかぶ」や「くじらぐも」で音読発表や劇発表などの表現活動に取り組んできた。自分で考えた動作や台詞を加え、音読の楽しさを味わい、発表することの充実感も体験してきた。

本単元でも、これらの表現活動と結びつけて、楽しく学習する方法として、「たぬきの糸車劇場」を開き、1年生での音読のまとめとしたい。

3. 願う子どもの姿

お話の音読を通して、あらすじをつかむことができる。また、はっきりとした発音で音読したり、進んで表現したりして、協力して劇の発表ができる。劇を見合うことで、お互いの表現の良さを認め合うことができる。

4. 研究内容との関わり

研究内容 に関わって (基礎・基本を確立するための、情報教育カリキュラムにのっとった単元指導計画の在り方)

自分達の練習のビデオを見ることによって、客観的に自分の表現を評価する。また、繰り返し同じ場面を見ることにより、全員で表現の良さを確かめ合う。

研究内容 に関わって (基礎・基本の力をつける学習活動の在り方)

自信を持って音読ができるように、できるだけ音読する機会を持つ。繰り返し聞き合い、お互いに評価し合う中で、上達を図りたい。また、動作化を通して書いてあることを確かめ、登場人物の気持ちを想像して吹き出しを書く活動を丁寧に行い、内容の理解を図りたい。そのうえで、吹き出しを付け加えて読む活動につなげ、創造する楽しさを味わわせたい。

研究内容 に関わって (基礎・基本の定着を図る自己評価の在り方)

本時の学習をふりかえる場を設け、自分の決めためあてが達成できたかを確かめる。前時と比べどのように良くなったかをカードに書くことで確かめる。

5. 単元指導計画

	ね ら い	主 な 学 習 活 動	自ら学ぶ姿の育成
第 一 次	1 4	・あらすじをつかみ、学習の見通しをもつことができる。 ・全文を読み、心に残ったことを発表する。 ・挿し絵を手がかりに物語の順序を思い出す。 ・新出漢字、難語句の学習をする。 ・劇発表のための計画を立てる。	・発表の計画を進んで考えることができる
第 二 次	5 12	・各場面の様子を想像しながら、場面に合った読み方で音読することができる。 ・登場人物の様子を想像し、動作化する。 ・登場人物のつぶやきを吹き出しに書く。 ・役割分担をして、音読の練習をする。	・自分の言葉で吹き出しを書くことができる。 ・場面に合った読み方を考えることができる。
第 三 次	13 本 時 16	・自分のめあてにむかひ、聞いている人にわかりやすい読み方で、劇を発表することができる。 ・劇の計画を立てる。 ・グループごとに練習する。 ・ペアグループで見合い、良さ見つけをする。	・自分で音読のめあてを決め、自己評価ができる。

6. 本時の目標 (14 / 16)

登場人物の気持ちになって考えた台詞や動作を入れながら、見ている人にわかりやすい読み方や動作で劇を作り上げることができる。

7. 本時の評価規準

読むこと	人物の気持ちや様子を想像しながら話の楽しさを味わい、言葉のおもしろさに気付いて音読したり、動作化したりできる。
------	---------------------------------------------------------

8. 本時の展開

段階	学 習 活 動	研究に関わって 資料 評価 支援
つかむ	<p>1. 前時のふりかえりから、本時の課題がわかる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>聞いている人にわかりやすい読み方や動作で、劇の練習をしよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・読み方がゆっくりで聞きやすいから、まねをしよう。 ・声が小さくてよくわからないので、もっと大きい声で読もう。 ・動作を考えて発表していて良かった。 ・声の大きさが良かったから、次も大きい声で読もう。 	<p>前時に撮ったビデオを見る。 音読のよさを見つけることができ、それを生かして自分のめあてを決めることができる。</p> <p>ワークシートに書くように助言する。 音読の視点を確認する。 良かった読みを確かめて全員で練習してみる。</p>
ふかめる	<p>2. 各自のめあてを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室のみんなに聞こえる声で読もう。 ・ゆっくりとはきはきした声で読もう。 ・動作をつけながら、大きい声で読もう。 ・暗記して読もう。 ・おかみさんになったつもりでやさしく読もう。 ・グループの子と声を合わせて読もう。 	<p>動作化や役割読みを通して登場人物の気持ちを想像しながら、音読に表すことができる。</p>
まとめる	<p>3. グループに分かれて、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のめあてを言ってから発表し合う。 ・同じ役の子のめあてや発表をよく聞いて、よさ見つけをする。 ・すらすら読んでいて良かった。 ・めあてどおり、ゆっくり読んでいたから良かった。 ・「～」のところを強く読んでいたので、わかりやすかった。 ・場面に合った声の大きさが良かった。 ・おかみさんのようにやさしく読んでいたので良かった。 ・動作をもっと大きくすると良いと思う。 ・大きい声を出すためにみんなで一緒に読むと良いと思う。 ・今日の自分の音読や動作のふりかえりをする。 <p>4. 代表グループの発表を見て、本時のめあてをふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前よりもすらすら読めるようになった。 ・暗記ができるようになった。 ・めあてどおり、ゆっくり読んでいたのでよかった。 ・「～」のところを強く読んでいたので、わかりやすかった。 	<p>同じ役の子のめあてを聞くことができる。めあてに合った良さを見つけることができる。 ワークシートに書かせる。 自分のめあてにそってふりかえることができる。</p> <p>練習の様子をビデオに撮っておき、ふりかえりに生かす。 表現の工夫を価値付け、広める。</p>